

MOMOYAMAの素顔が見えるカジュアル・マガジン

# アンテレクロス

St. Andrew's Cross

no.163

2016

spring

桃大いいね♥研究所

桃大生の

「体験!発見!グローバル」

特別企画

谷村新司さん

スペシャルインタビュー



# 桃大 いいね 研究所

momodai  
"iine" Laboratory

MOMOYAMAの素顔が見える

カジュアル・マガジン

アンデレクロス

No.163 2016 Spring

- 01 桃大いいね研究所
- 07 谷村新司さんスペシャルインタビュー
- 09 ともだちは留学生
- 10 MOMOYAMAチャレンジ
- 11 桃コレ!
- 13 社会で活躍する桃大卒業生
- 15 アンデレニュース
- 18 教育後援会だより



鎌田 航平さん

国際教養学部 英語・国際文化学科 2年次  
大阪市立 淀商業高校出身  
1年次に「BSP(Beginning Step Program)」  
「インド異文化・ボランティア体験セミナー」に参加



Thailand  
タイ



世界が見えると、  
価値観や考え方を  
変わっていく！



## 日本ではできない 「国境を越える」という体験。

あなたは、国境を見たことがありますか？海に囲まれた島国・日本では、国境線は海の上。地図上で見ることはできても、直接、目にすることはできません。でも世界には、その国境を実感できる場所があります。

僕が行ってきたのはタイ。タイ北部はミャンマーとラオスに隣接していて、メコン川で隔てられた3国の国境を一望することができます。この三角地帯は「ゴールデン・トライアングル」と呼ばれています。さらにタイとミャンマーの国境へ行くと、川幅が狭くなり、泳が

なくても渡れそうなくらい。まさに目の前の、ほんの数メートル先に違う国があって、時差もあるという不思議な感覚に包まれました。そしてミャンマーの入国許可を得れば、タイから歩いて橋を渡って国境を越えられます！

感動的で忘れないこの初体験は、桃山学院大学の国際体験プログラム・BSP (Beginning Step Program)のこと。タイ以外にも、中国、ベトナム、台湾のプログラムがあり、1年次の夏休みや春休みに参加することができます。

さまざまなグローバル体験ができる桃山学院大学。実際に体験した学生たちに、それぞれのエピソードを聞かせてもらいました！



【写真左】タイからメコン川をはさんでミャンマー、ラオスを一望【写真右】この小さな川が、タイとミャンマーの国境



ゴールデン・トライアングル



# 桃大生の「体験！発見！グローバル」



この春からアンデレクロスの  
ガイドをつめます。  
いっしょに楽しもう！よろしく！

MOMOKO  
モモコ

MOMOTA  
モモタ



Germany  
ドイツ



フライアムト村

## 「自分の電気は自分でつくる」 環境にやさしい村。

本でも太陽光発電などの自家発電が普及はじめていますが、まだ一般的には電気代を払って電気を買う家が多いと思います。ところがドイツには「自然エネルギーによる自給率100%」の村が存在！ドイツ南部に位置するフライアムト村です。

村の人々は環境保全への意識が高く、多くの民家が太陽光発電を設置。また、みんなでお金を出しあって風力発電機となる風車を建設。1機あたりの費用は、なんと約2億7,000万円にものぼるそうです。さらに農家では、植物や家畜の糞尿を発酵させてガスを取り出し、発電に活用するバイオガス発電にも取り組んでいます。これらの自然エネルギーによる発電で、自分たちが使う電気を100%まかなってい

るそうです。

環境保全についてあらためて学ぶことができた今回の旅は、桃山学院大学の国際体験プログラム「ヨーロッパエコ・スタディ」。ドイツの先進的な環境保全やまちづくりについて、街や森林をめぐりながら学び、教会や美術館の見学もできるプログラムです。



【写真左】フライアムト村のバイオガス発電機【写真右】ヨーロッパならではのスイーツも堪能



加辻 彩夏さん

国際教養学部 国際教養学科  
(現:英語・国際文化学科) 3年次  
和歌山県立 紀央館高校出身  
2年次に「ヨーロッパエコ・スタディ」に参加



現地の人々とふれあって、  
はじめてわかる文化がある！



Malaysia  
マレーシア



## 断食が…パーティーに！ 陽気なイスラム教徒とのふれあい。

**M**レーシアはイスラム教徒が多い国。この国の人々は、豚肉やお酒を口にしない、時間に応じてお祈りをする、女性は顔以外を隠すなど、イスラム教の教えを守って生活しています。

その中でも特に、僕から見て大変そうだったものは、「ラマダーン」と呼ばれる1ヶ月間の断食。日の出から日の入りまで何も食べないなんて、まさに修行のよう。話しかかれないと辛い様子なのでは…と想像していましたが、実際はそうでもありません。人々は「早く食べたい～」「夜はまだか～」と、意外とおだやかな様子でした。そして日の入りには

「待ってました！」とばかりにパーティーがスタート！音楽を大音量で流して、ワイワイと楽しく飲食を楽しめます。ラマダーンの間は、このようなパーティーが毎日のように行われます。人々はイスラム教の教えを守りながらも、同時にそれを楽しんでいるんですね。

一部の過激な人々を除いて、実際のイスラム教徒はとても陽気で、友だちを大切にするやさしい人々。経済学部のプログラム「ABCP（アジア・ビジネスキャリアプログラム）」での経験を通じて、それを知り、学ぶことができました。

【写真】ラマダーン中のパーティー

口野 良祐さん

経済学部 経済学科 4年次  
大阪府 阪南大学高校出身  
2年次に「ABCP（アジア・ビジネスキャリアプログラム）」に参加

桃太生ってホントに  
グローバル！  
次はあなたの番かもも！



Canada  
カナダ

## 「おいしいカルチャーショック」を ホームステイで実感。

**私**がカナダへ行ったときのこと。そこはメディシン・ハットという自然にあふれた小さな町で、滞在はホテルではなくホームステイをしていました。

カナダの家庭料理は日本と比べてどれほど違うんだろうと思っていたが、肉料理も魚料理もあり、中でもカナダで豊富に獲れるサーモンは私たち日本人にもじみ深く、特に違和感はありませんでした。しかし、カルチャーショックは意外なところからやってきました。学校へ通う私のために、お母さんがつくってくれたお弁当。サンドイッチに添えられていたのは、なんと「ナイ

ロン袋に入った生のにんじん」。…え？ 学校の友だちに聞こうと思ったら、なんとその友だちもナイロン袋、中身は生のブロックドリーパー。おしゃれなサラダではありませんが、自然に恵まれたカナダの生野菜はおいしかったです。

私がカナダへ行ったのは、桃山学院大学の「英語特待生留学」で英語の勉強が主目的でしたが、同時に異文化体験もできました。このプログラムでは、カナダのほか、アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドへも留学できます。

【写真】語学学校ではいろんな国から来た留学生と友だちに

安田 裕香さん

国際教養学部 英語・国際文化学科 2年次  
大阪府 PL学園高校出身  
1年次に「英語特待生留学」に参加

# 桃大なら、グローバルを体験するチャンスがたくさん！

## 学内で体験 …… 約250人の留学生と日常的に交流

### 留学生を1対1でサポート バディー制度

海外協定校から受け入れる交換留学生や短期日本語研修生の日本の生活を、担当の学生が1対1でサポートする制度。来日前にメールを交換するところからはじまり、銀行口座開設など留学開始時の日常生活をサポートしていく中で、留学生と強い絆を築いていくことができます。



### イベントを通じて留学生と交流 国際交流サークル@（アットマーク）

全年次の学生と留学生で、国際交流室で一緒にランチを食べたり、ハロウィンパーティーやスポーツ大会など、さまざまなイベントを企画し、異文化交流を行うサークル。国籍や年齢を越えた友だちをつくることができます。



## 海外で体験 …… 学生の目的やレベルに応じた多彩なプログラム

### アジアで異文化を学ぶ BSP(Beginning Step Program)

夏期・春期休暇の約2週間、タイ、中国、ベトナム、台湾で実施する異文化体験プログラム。入学して間もない時期に異文化を体験することで、大学での「学び」の方向性を見つけることが目的です。



### 異文化を肌で感じる 短期海外研修—語学研修

1ヵ月前後、海外協定校（語学学校）で集中的に語学を学びます。派遣先学校によっては、アクティビティなども用意されており、ネイティブスピーカーと一緒に過ごす時間も多く用意されています。

### 海外でボランティア活動 短期海外研修—ボランティア

国際ワークキャンプをはじめ、インドネシア、インド、中国（内モンゴル自治区）で年間4つのプログラムを行っています。世界中のさまざまな問題に直面することで、「大学生として社会に果たすべき責任」について考えるきっかけになります。  
※国際ワークキャンプは今年で実施30回を迎えます。



### テーマに沿って学ぶ 短期海外研修—フィールドスタディ

現地でテーマに基づき実地調査。ヨーロッパで環境問題への取り組みを学ぶ「ヨーロッパ エコ・スタディ」、イタリアで文化や歴史を学ぶ「イタリアフィールドスタディ」があります。



### 海外ビジネスの現場を体験 短期海外研修—国際インターンシップ

多くの日系企業が進出しているロサンゼルスや目覚ましい成長を遂げる中国で2～3週間のインターンシップを体験するプログラム。海外でのビジネスのリアルな現場を知ることができます。

### 英語ネイティブ教員のワークショップ English Program

プログラムの1つであるEnglish Lunchは、気軽に英語で話すことができます。身振り手振りも含めたリアルなコミュニケーションは楽しく、教科書で学ぶのとはまた違った感覚。さらにAmbassadorプログラムなど、上級レベルのプログラムもあります。



### 留学生と同じマンションに居住 レジデント・アシスタント制度

4～5名の学生が留学生と同じマンションに暮らし、日本の生活を支援する制度。銀行の利用や公共料金の支払いをはじめ、ホームシックになった人のメンタルのフォローもするなど、留学生と日常的に関わるので、海外に行かなくても語学力が向上します。



### 集中的に英語力をアップ 海外英語特訓・特待生留学

英語力の向上を目的とした1学期間の留学。アメリカやイギリスなど英語圏の海外協定校で、集中的に語学研修を行います。



### 日本語教員資格を取得 海外日本語教育実習制度

「日本語教員資格課程」を受講する学生のためのプログラム。海外協定校の日本語教育の現場に教員のアシスタントとして参加。短期実習の3週間か、長期実習の1学期または2学期間、授業を補佐しながら日本語指導の進め方を学びます。



### 海外で専門科目を学ぶ 長期派遣留学

半年から1年、海外協定校へ留学し、現地の学生や世界中から集まる留学生と同じクラスで自分の専攻する分野について学ぶ。国際社会で通用する語学力やコミュニケーション力を習得します。現地での修得単位も本学の単位として認定するため、4年間で卒業できます。

※その他、学部ごとの国際体験プログラムもあります。



# 各学科は「グローバル」をこう考える!



## グローバル化で、英語の必要性は本当に増えている?

皆さんは「グローバル化の進展に伴って英語の必要性が増える」といった主張を見聞きしたことではありませんか。試しに「グローバル」と「英語」をキーワードに、インターネット上の情報を検索してみましょう。文部科学省の提言や報告から、経済誌の記事、英会話学校の広告まで、上のような言葉を前提とした議論や情報があふれています。しかし、そもそも、この言葉の内容は本当なのでしょうか。ど

のような証拠とともに事実だと言っているのでしょうか。またその「証拠」は、事実だと判断するのに妥当なものなのでしょうか。寺沢拓敬氏の著書※では、社会統計データを利用し「英語の必要性が増えておらずむしろ減少している」ことを明らかにしています。普段よく見聞きする言葉や主張が「本当だろうか」と疑問を持つことからはじめてください。

※寺沢拓敬著「日本人と英語」の社会学(2015年) [研究社]



国際教養学部 英語・国際文化学科  
釣井 千恵 准教授



## グローバル化の中で社会を見つめなおす

「EU、日本に死刑の執行停止を要請」。こうしたニュースに、なぜ国内の問題に口を挟まなければならないのか、と不快に感じる人もいるようです。確かに、死刑制度をはじめ、法律とは人々の価値観を反映した社会の根本的ルールであり、外から押し付けられるべきものではありません。しかし同時に、異なる価値観や考え方を頭ごなしに否定することも望ましくありません。グローバル化が進む現在、各国間の

調整が必要となるケースも少なくありません。その際に求められるのは、一方的な受容や拒絶ではなく、異なる価値観との対話を通じて、今ある制度の利点や欠点を見つめなおし、よりよい社会のあり方を探していく柔軟な姿勢です。法学院では、憲法や民法、刑法をはじめ、様々な角度からこうした価値観のせめぎ合いを体験し、よりよい社会のあり方に思いをめぐらせることができるはずです。



法学院 法律学科  
塙田 鉄也 准教授



## わたし達は違うのか、同じなのか?

いわゆるグローバル化によって、多様な社会があることが改めて明らかになりました。わたしが好むと好まざるとにかかわらず、社会の間に多様性があり、ひとつの社会の中でも多様性があります。そしてもちろん、個人間の多様性も、さらにはひとりの個人の中にも社会的な役割に応じた違う顔が存在します。

それに対して、人間が生物として共通であることからくる普遍性もあります。人間は

生物学的には1種類で、意外なほど遺伝的多様性がありません。だから、人間は容易に他人の人間を理解することができるのです。

人間社会の普遍性と多様性は、グローバルな視点によってはじめて見えてきます。多様性の中の普遍性、普遍が作る多様を社会学部社会学科のプログラムで共に学んでいきましょう。



## 日本食品産業のアジアビジネス

皆さんは海外旅行などで、日系レストランを目にしたことや、実際に食事をした経験はありませんか。私は調査研究のため2016年3月に学生たちと台湾のモスバーガー、定食店の大戸屋を訪問しました。現在、台湾では日系外食ビジネスが発展しています。日本は大量の食料を輸入していますが、一方で「日本食の世界文化遺産登録」を契機に、日本食品の輸出、日本の外食産業の海外展開も拡大しています。

私は、このような日本食品産業のアジアビジネスについて研究しています。経済学部では、こうした経済のグローバル化に対応するため、海外でのビジネス体験、語学研修等の多彩なプログラム(ABCP, BALIAL, CBCPなど)を開講しています。アジア現地での学習・体験によって、これからのお国際舞台で活躍できる人材を育成することに努めています。



## グローバル社会におけるリーダーシップとは?

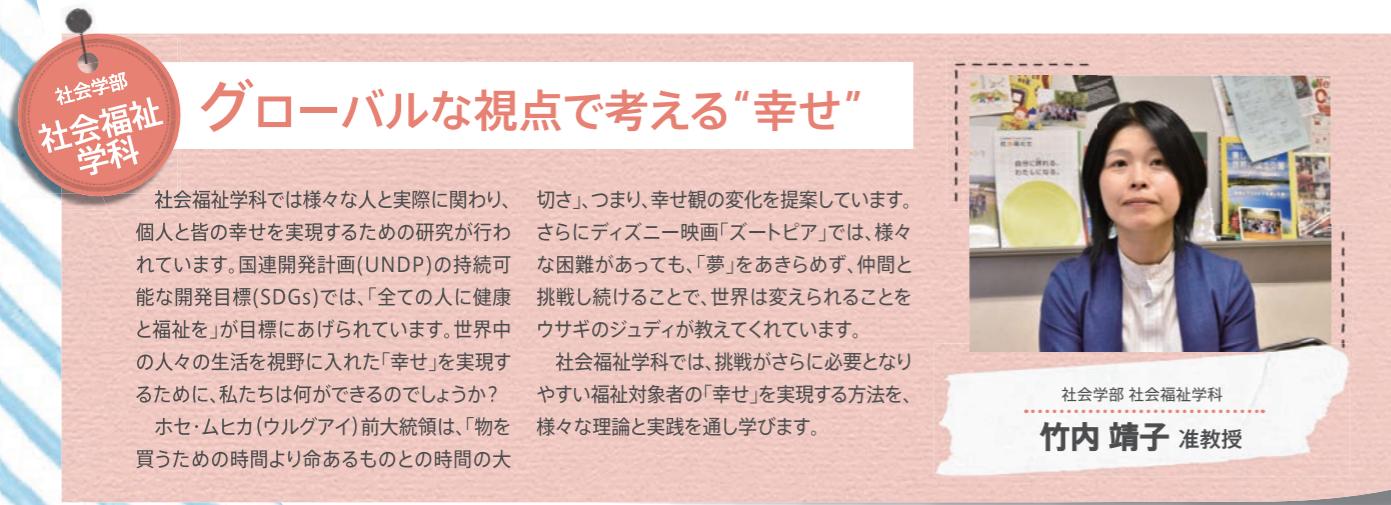
変革のスピードが著しい現代のグローバル社会においては、組織の中で特定の人がリーダーシップを執ることよりも、チームにおいてメンバーの一人ひとりがリーダーとしての役割を担い、さらに知識を共有し切磋琢磨することで、新しいアイディアを創造する力が求められています。これをシェアード(共有型)・リーダーシップといいます。

経営学部ではこのようなシェアード・リーダー

シップを実践できるプログラムがあります。例えば、上級生が下級生をサポートするエルダーシステムでは、上級生が下級生の授業を設計します。また、実践ゼミでは学生が主体的に地域社会と関わり、経営改善の提案や地域活性化イベントの実施を行います。このような活動を通じて、一人ひとりの気づきや振り返りを共有することで、新しいアイディアを創造する力を養い、グローバル社会に対応する人材を育成します。



経営学部 経営学科  
櫻井 結花 准教授



## グローバルな視点で考える“幸せ”

社会福祉学科では様々な人と実際に関わり、個人と皆の幸せを実現するための研究が行われています。国連開発計画(UNDP)の持続可能な開発目標(SDGs)では、「全ての人に健康と福祉を」が目標にあげられています。世界中の人々の生活を視野に入れた「幸せ」を実現するために、私たちは何ができるのでしょうか?

ホセ・ムヒカ(ウルグアイ)前大統領は、「物を買うための時間より命あるものとの時間の大

切さ」つまり、幸せ觀の変化を提案しています。さらにディズニー映画「ズートピア」では、様々な困難があっても、「夢」をあきらめず、仲間と挑戦し続けることで、世界は変えられることをウサギのジュディが教えてくれています。

社会福祉学科では、挑戦がさらに必要となるために、私たちは何ができるのでしょうか?

やすい福祉対象者の「幸せ」を実現する方法を、様々な理論と実践を通して学びます。



社会学部 社会福祉学科  
竹内 靖子 准教授



## 音楽家 谷村新司さん スペシャルインタビュー

Shinji Tanimura Special Interview

### ～心と心をつなぐ教育を求めて～

桃山学院大学の同窓生であり、アリスのリーダーとして1970年代から数々のヒット曲を世に輩出し、ソロでも大きな功績を残された音楽家・谷村新司さん。その数々の功績を称え、今年、本学として日本人初の名誉博士学位を授与いたしました。

谷村さんは2007年から、“学びたい人が望めば、どこにでも出かけていく移動学校”をコンセプトに、音楽を中心としたトーク＆ライブキャラバン『ココロの学校』を行っておられます。今回は谷村さんに、母校やご自身の音楽活動、特別講義への意気込みなど、熱い想いを語っていただきました。



#### 名誉博士学位を授与された感想をお聞かせください

「まさか、自分が？」。それが、素直な感想です。今でもそうだと思いますが、桃山学院大学は、とても開かれた大学です。そんな恵まれた環境のもと、僕自身も早々に海外に飛び出し、アジアでの音楽活動など、さまざまな経験を積んできました。そうした体験をもとに、現在は「音楽で自分ができることをしよう」と世界中で活動しているわけですが、それを母校も応援してくれていると感じて、本当にうれしいですね。身に余る光栄で心から感謝しています。

桃山学院大学は「自由と愛の精神」を掲げておられますが、当時も本当に自由でした。入学から1年は、体育会のゴルフ部でひたすら先輩たちのバッグ持ち。こうした経験は、実はとてもためになる社会学なんですね。先輩との距離の取り方を学んだり、社会に出たときに役立つ貴重な体験をすることができました。その後は音楽の方に傾倒していましたが、桃山学院大学は常に心のなかで強く意識していましたね。ミュージシャン仲間にも結構後輩がいるんです。皆、得意分野がはっきりしていて、そうした気質が育まれるのは

#### 個性が尊重される自由な桃山学院大学だからこそ。社会に出てから、つくづく実感しています。

#### 世界で活躍する谷村さんから見て今のがどのように映りますか

今も昔も、少なからず“不本意入学”的大学生がいると聞きました。われわれの世代は、いわゆる“団塊の世代”。とにかく同年代の人口が爆発的に多かったために、物心ついた時から競争、競争で生きてきました。他人より大きい会社に入ってより高い給料を得て…。それが、みんなの目標でした。そのために団塊の世代は、僕を含めて「子どもたちにはそんな競争はさせたくない」と考え、必要以上に大事に育て過ぎてきたように思います。今思えば、消極的な若者は自分たちの世代が生み出したのかもしれませんね。

ただ、そういった学生も、ある体験をきっかけにガラッと変わることがあると思います。僕もアリスの結成前に、武者修行と称してアメリカツアーを敢行しました。その経験によってプロの道に進むことを決めたのですが、僕の若い頃って、アメリカツアーも含めて結構無茶をしているんです。「とにかくアメリカに行こう！」って日本を飛び出して。そうすると、言葉なんて全然通じないのに、困って

ると助けてくれる人に出会うんですよ。そこで、人のやさしさが本当に心にしみて涙を流す経験をする。そのことで、心から人に感謝する気持ちを学ぶことができるわけです。アリスを結成したのも、そんな人のあたたかさに音楽で恩返しをしたいという想いからでした。学生の頃はすべてが漠然としていて、おそらく明確な将来像を描けずに、何となく自分たちの未来に不安を持っている人がほとんどではないでしょうか。でも、僕のように人生の価値観が大きく変わるような出来事に遭遇すると、将来の指針のようなものが芽生えてくるんだと思います。そういう“スイッチ”を若者に与えてあげること。それが、われわれ大人が果たすべき役割なのではないかと思います。あとは、彼らがそれをどう活かすか…ですから。



#### 上海音楽学院での経験と『ココロの学校』立ち上げのきっかけをお聞かせください

今から12年前、コンサートで国内外のさまざまな場所を回ってとても忙しくしていた時期、身体に帯状疱疹が出来て、病院に行く時間もなくステージに立っていました。55歳のときだったので、そのとき家内に「今のような歌の届け方だけが、あなたの生き方ではないのかもしれないね」と言われて、ハッとなりました。僕にはとても衝撃的な言葉で、素直にそうかもしれない。それがきっかけとなり、生き方をもう一度確認するために、2003年に活動を全部白紙にしました。ちょうどそんなとき、中国にある上海音楽学院から常任教授の就任依頼を頂いたんです。「音楽で何を伝えられるか。その心が大事だ」という、音楽に対する考え方方が一致したこともあり、中国で教壇に立つことになりました。そこで僕が提案したのは、「ベートーベンやモーツアルトになろう！」ということ。それはつまり、作詞作曲をしてオリジナルの楽曲を創ることだったのです。全員で70名ほどの生徒で、詩を書いた経験のある人は皆無に等しく、最初はほとんどがキヨトンとしていました。それでも、課題を与えると、独創的な詩を生み出してくれる学生が1~2名はいます。彼らから刺激を受けて、他の学生も意欲的になり、詞の次はメロディ、演奏と続き、3年目でオリジナル楽曲でのコンサートが開けるようになりました。

これは大学教育にも当てはまるで、先生が一方的に教えるのではなく、先生と生徒が互いに教え合い刺激し合う関係。教える側は教えているよう、実は教えられているんですね。教え授けると書く“教授”ではなく、共に受け合う“共授”。それを上海音楽学院で気づき、本当に感動したわけです。そんな上海での経験を、日本の子どもたちにも伝えたい。中国の若者に向かって話したことを、きちんと話す機会を持ちたい。そう考えて始めたのが『ココロの学校』でした。

#### 『ココロの学校』で大切にしていることは何でしょうか

今の日本は物質的にはとても恵まれています。そうした環境から得られるものは、実は少ないのではないかでしょうか。昔、カンボジアの難民キャンプに、アリスで支援コンサートを行ったことがあります。そのときに、ぬかるみにタイヤがはまって動けなくなった僕たちのトラックを、キャンプの子どもたちがみんなで押してくれたんです。それだけで「何時間もかけてここに来てよかった」と感動しました。その後、ニュースでその場所が爆撃されたことを知って、ものすごく

ショックを受けました。「自分たちはなんて無力なんだ」と。それからは、肩肘張らずに活動しようと考えるように。あくまで自然体で、すべての人にやわらかい心で接すると、相手の心も喜びで満たされる。そんな気持ちでいま音楽活動を続けています。『ココロの学校』には、子どもから大人まで幅広い方が集まってくれますが、「一緒に歌ってみましょうか」と言うと、すぐに声を出してくれるのは子どもたち。それから大人の女性で、大人の男性は一番最後(笑)。男性の場合、社会にしばられている方が多いのか、なかなか心をオープンにできない傾向があります。それでも丁寧に接していると、声を出してくれるようになります。最後は歌っているご自身に驚かれたりする。そんな自分が変わる経験をしただければ、コンサートは成功だと考えています。



特別講義でも、こうした自分たちが当たり前だと思っていること、そんな部分を改めて感じてもらえばと思っています。

#### 桃山学院大学、そして在校生へのメッセージをお聞かせください

僕は学生時代、大人から諭されると反発するタイプでした(笑)。ですので、今の学生にこうしてほしいという要望はありません。ただ、自分の心が何に喜ぶのか、自身の心の声に耳を澄ませてほしいと思いますね。僕の特別講義にも、学生だけでなく卒業生、教職員の方々にも参加していただき、年齢を問わず地域に開かれたオープンなものにしていければと考えています。自由な大学、桃山学院大学だからこそ実現できる、そんな生涯学習の場をつくりたいと思っています。定型にはめ込まないのが僕のポリシー。そうした意味では、まさに桃山学院大学のあり方と同じだと感じます。50年、100年後の母校が、どのように変化し発展しているのかが楽しみです。

## TOPICS

### 本学にて『ココロの学校』を開催しました。

2015年度卒業式の同日、本学カンタベリー

ホールにて、学位授与を記念した在校生・卒業生限定イベント「谷村新司トーク＆ライブ ココロの学校PREMIUM」を開催。ホールには大学OB・OGや在学生やその保護者の方々など400名以上が来場されました。



## Profile

谷村新司(たにむらしんじ)

1948年生まれ、大阪府出身。桃山学院大学在籍中の1971年、堀内孝雄氏と2人のアリスを結成。翌1972年に矢沢透氏を加え3人のアリスに。「チャンピオン」「冬の稻妻」などのヒット曲を連発し、ソロとなった後も「昂」「サライ」などが大ヒットし、中国をはじめアジア各地でコンサートを開催。近年では、トーク＆ライブキャラバン「ココロの学校」を全国で行なうなど、音楽を中心とした幅広い活動と、次世代を担う若者の育成に尽力している。2015年、春の紫綬褒章を受章。



## アレックスからもらった 積極性を、 私たちのチカラに!



**私**たちは国際交流が盛んだという理由で桃山学院大学に入学しました。国際交流サークル@(アットマーク)に参加し、仲良くなった留学生のひとりがアレックス。彼は、友だちから「大阪っておもしろいよ」と教えてもらったことがきっかけで、桃大に留学したそうです。

私たちのふだんの交流は、ヨハネホール(国際交流室)でランチやお茶をすること。大学のことやプライベートなことなど、いろいろな話をして盛りあがっています。アレックスから英語を教えてもらったり、私たちが日本語や漢字を教えてあげたりすることもあり、お互いに学びながら交流しています。

私たちは今年の2月にイギリスへ英語研修に行ったのですが、渡航前にはアレックスからアメリカ英語とイギリス英語の違いについて教えてもらいました。例えば“How are you?”のくだけた言い方。アメリカでは“What's up?”が多くて、イギリスでは“You all right?”が多いそう。そんな

「リアルな英語」を教えてもらい、実際にイギリスでの言葉を使うことができました。

勉強熱心で何事にも積極的なアレックスと交流する中で、私たちも、今まで以上に積極的になれた気がします。4月には、私たちふたりで新入生対象のフレッシャーズキャンプをサポートするスタッフに挑戦しました。日本語も上手で、ジョークをまじえて

話してくれるアレックスは本当に楽しくて、今ではかけがえのない親友です。彼から学んだ積極性を忘れず、長期留学などさまざまな活動にトライしていきたいと思います。

**富本 朱音 さん**  
国際教養学部 英語・国際文化学科 2年次  
徳島県立川島高校出身

**中井 満里奈 さん**  
国際教養学部 英語・国際文化学科 2年次  
大阪府立金岡高校出身

**プラタオ シルバロペス  
アレクサンダ さん**  
愛称:アレックス  
出身国:ボルトガル共和国  
出身大学:ハワイ・パシフィック大学(アメリカ)

「将来は、日本の食文化を  
アジアに伝えていきたい!」



MOMOYAMA  
チャレンジ!

TOEIC® 925点 取得

経済学部 経済学科 4年次  
石川県立金沢桜丘高校出身 **日光 伸太朗さん**

僕が英語や海外に興味を持ったのは、大学に入ってから。大学受験で別の大学を志望していたのですが、合格することができませんでした。悔しくてたまらなかった僕は、「桃大で、志望大学に行った人たちよりも充実した大学生活を送ってやる!」と思うようになりました。

何でも積極的に挑戦しようと思った僕は、1年次の春休みに経済学部の海外プログラム「ABCP(※1)」に参加。マレーシアでアジアや中東の留学生とともに学ぶ中で、自分の英語力の低さを感じました。これが英語を自主的に勉強するきっかけとなり、外国语教育センターのネイティブの先生に勉強方法を相談しながら、毎日2時間くらい勉強。全く勉強しない日は1日もありませんでした。外国语教育センター主催のプログラムにも参加するなど、とにかく英語力を高めるためにできることをやりました。

2年生の時に初めて受けたTOEIC®で835点を取得。しかし、桃大にいる交換留学生や、ABCPで知り合ったアジアの友だちと会話をする中で、「835点でも、まだこの程度か」と感じることが多くありました。TOEIC®の目標スコアを900点に設定し、さらに勉強を続けました。朝起きて15~30分間くらい単語を勉強し、夜はリスニングを1時間以上。3年次の9月には経済学部の海外プログラム「BALIAL(※2)」に参加し、4ヶ月間すべて英語の授業で経済学を学びました。

僕がここまでがんばれたのも、すべては大学受験での悔しさがあったから。勉強が辛いと感じたら、いつもこの気持ちを思い出します。そして今では、桃大に来て本当に良かったと感じています。目標を超える925点を取得しましたが、それでも自分の英語力には満足できません。今も毎日勉強中。語学力を活かして、将来は日本の食文化をアジアの国々に伝える仕事をしたいと思っています。

※1 アジア・ビジネスキャリアプログラム

※2 バリ島アクティブラーニングプログラム

【写真上】TOEIC®のスコアシート。リスニングの点数が高かったのは、シャドーイングを繰り返した成果

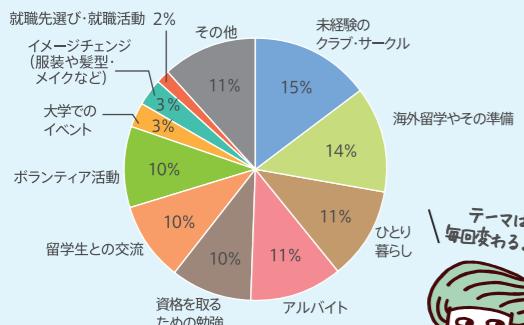
【写真下】英語を勉強するきっかけとなったABCP

# 桃コリ!

桃大生ボイスコレクション vol.1

## 桃大生100人アンケート

Q. あなたが「桃大に入学してから新たにはじめたことって、なに?」



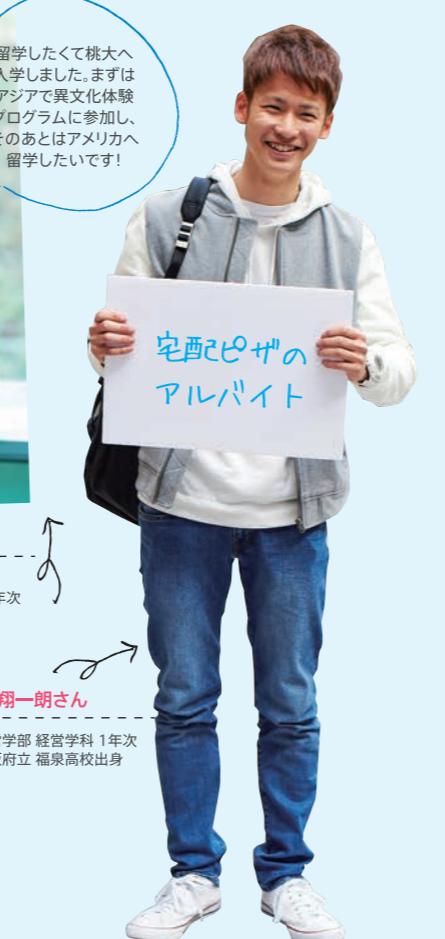
**memo**  
「クラブ・サークル」や「ひとり暮らし」などは一般的な大学生として予想通り。その一方で、「海外留学やその準備」「留学生との交流」と答えた学生が多くたところに、国際色豊かな桃大らしさが出た結果となりました。



# 私たち 桃大で、コレをはじめました!

桃山学院大学との出会いは、新しい

世界との出会い。そこで桃大生のみなさんに、入学後に新たにはじめたことを聞いてみました。



入学するまでは外国人と話したことなかった僕が、桃大で留学生と友だちに。今は本気で英語を勉強しています!

桃大で新しいことを始めたと思い、ボランティアをしています。地域の子どもたちと遊んで、お母さんたちの子育てを応援!

今井 满里奈さん  
経済学部 経済学科 2年次  
愛媛県立 松山北高校出身

ルソーベレーズ・アレクサンドルさん  
出身国:フランス  
出身大学:イドラック(フランス)

ひとりで自由に過ごせる時間が増えた一方で、自炊をする大変さを実感…。これまでの実家暮らしのありがたみも感じています。

松原 未実さん  
国際教養学部 英語・国際文化学科 1年次  
大阪府立 箕面高校出身

[左] 岡本 増乃さん  
国際教養学部 英語・国際文化学科 1年次  
大阪府 浪速高校出身

[中央] 上野 心さん  
国際教養学部 英語・国際文化学科 1年次  
兵庫県立 三田西陵高校出身

[右] 木村 純菜さん  
国際教養学部 英語・国際文化学科 1年次  
香川県立 高松商業高校出身



社会で活躍  
する  
桃大卒業生



市長として、  
未来への責任を  
果たしていきたい。

桃山学院大学を卒業後、出身地である兵庫県の赤穂市役所に入庁。企画部長や副市長など、さまざまな職務を経て、現在は赤穂市長として市政を担われている明石元秀さんに、大学時代の思い出や現在のお仕事についてお話ししいただきました。

赤穂市長  
Motohide Akashi

明石 元秀さん

1 自立、学び、笑い。  
自我を確立した桃大での4年間。

私が桃山学院大学に入学して最初に学んだことは、自己管理の大切さ。大阪で下宿生活を始めたので、家事など身の回りのことをすべて自分でしなければなりませんでした。だらだらしていると時間だけが過ぎてしまい、改めて「自立しなければ」と思いました。

そして私が入学した1969年は、大学紛争、学生運動が非常に激しかった時代。学生が自分たちの意見を主張し、デモ活動をしたり、大学を封鎖することもありました。それを目の当たりにして、社会に対してそういう意思表示、自己表現の方法もあるのだなと感じたことを覚えています。

学業では、経済学や社会学のほか、日本文学や思想史など、魅力的な先生、楽しみな講義がたくさんありました。それらを通じて知識を得て、ものを見る眼、世の中を見る眼を養い、この大学4年間で自我を確立することができたと思います。また、大阪へ来たことで、漫才や喜劇を劇場で楽しむことも。構成作家や放送作家に興味を持ち、ラジオ番組や新聞の読者欄に投稿するなど、視野を広げる機会が多くありました。



2 203票差の接戦を制して、  
市長へ。

大学卒業後は出身地である赤穂市役所に入庁しました。公務員というと安定した印象がありますが、実際はそんなに甘いものではありませんでした。まだパソコンのない時代、税務課や財政課では手作



業で数字とにらめっこ。毎日、深夜まで働きました。

企画部長の時には、市が過半を出資する第三セクターが経営不振に陥り、民事再生手続きを担当することに。毎朝、気分が悪くなるほど精神的に追い込まれましたが、いつか「よくやった」と思えることを信じて、何とか再生手続きの終結決定を受けるに至りました。

その後副市長を約8年間務め、前市長の退任を機に、周囲からの薦めもあり、市民への恩返しの気持ちで昨年1月の市長選挙に出馬することを決意しました。しかし立候補したものの、それまで私は市民と直接ふれあう機会も少なく、選挙活動中にお宅を訪問しても「どこのどなたですか?」と言われたり、苦戦しました。立候補者は私を含めて3人で、選挙は大接戦となりましたが、僅か203票差で私が当選。市長という非常に責任の重い仕事に就くことになりました。そして今、これまで市職員として毎日の戦場の中で得た経験を武器に、悪戦苦闘の日々を送っています。

3 つねに問題意識を持ち、  
市民のために、未来のために。

行政というのは、総合商社のようなものです。何でもやらなければなりません。例えば私が就任後に行った取組のひとつで、赤穂市独自の条例の制定があります。きっかけは大規模太陽光発電施設の設置事業者と地元住民とのトラブル。太陽光発電施設等と周辺環境との調和を図るために、事業者は事前に住民に対して説明会を開催すること、自然災害の発生が危惧される場所などには設置しないことなどを定めた条例を制定しました。

また、就任前から継続している事業もたくさんあります。「住むのにならうといまち」というスローガ

ンを掲げて定住促進や子育て支援施策を充実させること、古くから赤穂の名産である天然塩をさまざまな加工食品に使ってもらったり、海外での見本市に出品してPRすることなど、多岐に渡ります。赤穂市と姫路市とで開催してきた、ペルリンフィルの第1コンサートマスターである桜本大進さんが音楽監督をつとめる「ル・ポン国際音楽祭」も10周年を迎え、今年は東京でも特別公演が開催されます。

私は市長として「未来に向けて責任ある行政を」という考え方で仕事をしています。そのために常に問題意識を持ち、いろんな角度から物事をとらえよう工夫することを心がけています。自分の未来のために学ぶ学生生活も同じではないでしょうか。皆さんも「なぜ勉強するのか」「何をしたいのか」という問題意識を持ち、学業やさまざまな活動に積極的に取り組んでほしいと思います。



profile

明石 元秀(あかし もとひで)

1950年、兵庫県赤穂市生まれ。1969年、桃山学院大学経済学部入学、1973年卒業。同年4月、赤穂市役所に入庁。企画部長、教育次長、安全管理監を経て、2007年、赤穂市副市長に就任。2014年、赤穂市副市長を退任。2015年、赤穂市長に就任

# ST. ANDREW'S NEWS!

## 2016年度 新任教員・新規採用職員 紹介



## メディア掲載情報

### ■本学の「サードプレイス～シェア桃大～」が新聞に掲載

メディア:読売新聞(2016年1月29日/朝刊)、毎日新聞(2016年1月23日/朝刊)

社会学部社会福祉学科 松端克文教授のゼミ生を中心に、本学の学生約40人が参加している「サードプレイス～シェア桃大～」が新聞で紹介されました。サードプレイスとは、和泉市府中町の商店街にある空き店舗を使って、地域のさまざまな団体と協力しながら商店街の活性化や子育て支援、子どもの学習支援などを行うものです。

### ■社会学部 石川明人准教授の著書が新聞に掲載

メディア:朝日新聞(2016年2月14日/朝刊)、読売新聞(2016年2月28日/朝刊)、日本経済新聞(2016年2月28日/朝刊)

社会学部社会学科 石川明人准教授の著書『キリスト教と戦争』(中公新書)が、朝日新聞、読売新聞書欄、日本経済新聞に掲載されました。朝日新聞では、「どんな社会にとっても存亡の危機である戦争では、宗教が兵士を励まし支えるのは通常のことだ。正当防衛や「正しい戦争」をめぐる議論も、カトリック神学に端を発する。旧約聖書から現代まで教義と歴史を概観、愛と平和を口にすることで暴力を正当化するのは宗教のみならず人間に普遍的なこと」という視点から戦争論に新たな切り口を開く」と紹介されています。

### ■社会学部 金澤ますみ准教授のコメントが新聞に掲載

メディア:朝日新聞(2016年2月23日/朝刊)

社会学部社会福祉学科 金澤ますみ准教授のコメントが、朝日新聞の「子どもと貧困」に関する記事に掲載されました。記事で金澤准教授は、保護者自身が受診経験に乏しくわが子の病状に気づかない、医療費助成を知らないなどの理由で、受診させてもらえない子どもが大勢おり、「学校で医師に会える意味は大きい」「校医も子どもも支援チームの一員。教職員と校医が気軽に相談しあえる関係の構築が大事である」とコメントしています。

### ■法学部 松村昌廣教授が台湾のニュース番組に出演

メディア:プライムニュース(台湾公共電視台)/放送日:2016年3月2日(水)

法学部 松村昌廣教授が台湾のNHKにあたる公共電視台の夜のプライムニュースに出演し、日台漁業交渉についての報道があり台湾漁民を中心に熱くなっている台湾世論を踏まえて、「協定改定は政治的なものではなく、漁業資源管理のためであり、日台双方のためである」とコメントしました。

## Topics

### 大阪府主催の試食会・意見交換会を開催しました

1月15日(金)、大阪府の主催で、府内に拠点を置く食品関連事業者10社が参加する試食会ならびに意見交換会が聖ヨハネホールで開催されました。本学からは正規留学生・交換留学生・日本人学生・外国语教育センター教員の総勢49名が参加。試食を通して、海外への販路開拓を検討する事業者と「海外の方が商品をどう見て、どう感じるのか?」「自社の商品を受け入れられる国や地域はどこか?」「改善点などは何があるか?」などのアンケートに回答するなど、意見交換を行いました。



### 就職活動に向けた決起大会を開催しました

2月19日(金)、これからの就職活動に向けた決起大会を開催しました。当日はキャリア・コンサルタント本田勝裕氏のご講演のあと、さまざまな業界から20社にご参加いただき、総合体育館サブアリーナにて各業界の仕組みや仕事内容についてお話しいただきました。当日は約700名の学生が参加しました。



### 2015年度卒業証書・学位記授与式を執り行いました

3月17日(木)、本学チャペルにて卒業記念礼拝・学部成績優秀者表彰式を、本学総合体育館メインアリーナにて2015年度卒業証書・学位記授与式を執り行いました。学部卒業生1283名、大学院博士前期課程修了生17名、博士学位授与者6名に、門出を祝う言葉が贈られました。また、授与式後、チャペルにおいて社会学部卒業論文集の表彰式も行いました。



### 介護福祉実習棟 竣工式を行いました

2016年度から、本学社会学部 社会福祉学科に介護福祉コースが新設されました。それに伴い、本学では介護福祉実習棟を建設し、3月31日(木)に竣工式を行いました。介護福祉コースは、定員20名という少人数に対し、充実したカリキュラムの下、高度な専門教育を実践します。



### 2016年度入学式を挙行しました

4月2日(土)、本学チャペルにおいて新入学生歓迎記念礼拝を、総合体育館において2016年度入学式を執り行いました。今年度は、学部生1606名、大学院生27名が入学式では、大勢の保護者が見守る中、壇上で各学部の新入生代表が宣誓の言葉を述べました。



### より魅力的な、充実のキャンパスへ

本学では、学生の満足度向上のための施設改修「魅力ある和泉キャンパス創り」事業を推進しています。2014年度のゼミ・語学教室のアクティブラーニング対応型教室への転換や教室棟中庭の憩いのスペース整備に続き、2015年度は以下の改修を行いました。

#### ■学修環境の整備

ゼミ・語学教室のアクティブラーニング対応型教室への転換として、1・3号館のゼミ教室に可動式机・椅子を整備。また、上記のうち一部のゼミ教室に電子黒板・ノートPC等を導入しました。

#### ■キャンパスの快適性向上のための整備

聖バルナバ館3階を改修し、リニューアルオープン。「食事や休憩のみならず、個人の自習からグループでの討論などさまざまなシーンや用途に使えるカフェのような空間」をコンセプトに、メインラウンジと、ゼミ等で利用できるグループ個室を設置しました。また、Wi-Fi、コンセントも整備。空間づくりにあたっては、意見交換会を実施し、学生の皆さん 의견を反映させました。

### フレッシャーズキャンプを実施しました

4月9日(土)~10日(日)の2日間、高石市の羽衣公園にある大阪国際ユースホステルにおいて、新入生(希望者)を対象としたフレッシャーズキャンプを実施し、79名が参加しました。上級生の学生スタッフが主導し、アイスブレイクプログラム、メディアーションプログラム、スポーツプログラム、飯盒炊爨(はんごうすいさん)によるカレー作りなどを行いました。2日間のプログラムを通じ、新入生が親睦を深め、有意義な交流を行うことができました。



## 中高通信

### 中 高 入学式

4月7日(木)、2016年度入学式が挙行され、桃山学院中学校126名、桃山学院高等学校744名の入学が許可されました。式典にはご来賓各位、多数のご父母の方々が参列され、厳粛な中にも心温まる式典が執り行われました。



### 高 台湾研修

3月22日(火)～25日(金)の日程で、国際コース高校1年クラスAの生徒たちが台湾にて短期海外研修を行いました。今回の訪問国は昨年のマレーシアから台湾となりました。この研修では、台湾の文化に触れるだけでなく、伝統ある淡江高校の生徒たちとの文化交流も実施しました。



## 教員新刊紹介

本学教員の研究成果をまとめた著書、執筆や編集に携わった書籍をご紹介します。



**著書**  
社会学部  
石川 明人 准教授  
「キリスト教と戦争」  
「愛と平和」を説きつづく論理  
中央公論新社  
¥820+税



**部分執筆**  
経済学部  
野尻 巨 教授  
地理学概論〔第2版〕  
朝倉書店  
¥3,300+税



**共編著**  
国際教養学部  
南出 和余 准教授  
「学校化」に向かう南アジア  
教育と社会変容  
昭和堂  
¥6,300+税



**共著**  
経済学部  
櫻井 雄大 講師  
PHP逆引きレシピ〔第2版〕  
翔泳社  
¥2,800+税



**部分執筆**  
国際教養学部  
青野 正明 教授  
他者論的転回  
宗教と公共空間  
ナカニシヤ出版  
¥3,800+税



## 教育後援会だより

### 教育後援会の主な活動

教育後援会は「大学の教育の発展と充実のための後援」を目的としていますが、その中でも学生に対する援助には6割以上の予算を組んでいます。3月に「課外活動援助金」の贈呈を行いましたのでご報告いたします。

#### ● 課外活動援助金(優秀団体援助金)

特に優秀な成績を収めた団体に対し、奨励金として課外活動援助金を支出しています。2015年度は空手道部、アイスホッケー部、合気道部、水泳部、ハンドボール部、フェンシング部に合計160万円を給付いたしました。



空手道部

### 主な会務報告

1月22日(金)	本部役員会
2月26日(金)	本部役員会
3月12日(土)	後援会だより「かけはしvol.7」に係る第2回会議
3月18日(金)	会計会議
3月26日(土)	本部役員会
4月16日(土)	本部役員会(近畿地区支部長含む)

○会報「ももやま」発行(新入生保護者対象)

○後援会だより「かけはしvol.7」発行

### 教育後援会会員の皆様へ

「アンデレクロス」は1年間に4回、季刊誌として発刊されます。支部などの活動で掲載したい情報があればお寄せください。なお、誌面の都合上、趣旨を変えずに一部変更させていただくことがありますのでご了承ください。また教育後援会の活動資金は、会費ならびに寄付金に負っています。皆様のご協力をお願いいたします。

桃山学院大学 学長室 校友室宛

〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1  
TEL.0725-54-3131(代) FAX.0725-54-3202

# SEQUIMINI ME

【セクイミニ メ】  
宮嶋眞チャプレンが語る大学生活のヒント

## グローバルの目指すところ



マルコによる福音書7章24節以下に、難病の娘を抱えるシリア・フェニキアの女性とイエスの対話が記されています。「娘から悪霊を追い出してほしい」と懇願されたイエスは「まず、子どもたちに十分食べさせなければならない。子どもたちのパンを取って、小犬にやってはいけない」とこの女性の願いを拒否します。弱きもの虐待されたものの味方であるはずのイエスが、なぜこのように困難の中にある女性の願いを拒否したのでしょうか。

実はこの女性はティルスという豊かな町に住んでいました。ティルスは地中海沿岸にあり、貿易で栄えた豊かな町でした。ただ食料は自給できないため周辺地域から、その富に任せて食料を奪っていたようです。ちょうど現代の日本が世界中から食料を調達しているように。イエスの拒絶は、このティルスという発展した大都市のおかげで、周辺のガリラヤに住む人々が食料を奪われ、飢えていることに対する怒りを表したものだったと思われます。「子どもたち(=ガリラヤの人々)のパンを取って小犬(=この女性も含むティルスの人々)にやってはいけない」と率直にティルス批判を表現したのです。

しかし女性はそこでひるみませんでした。「主よ、その通りです。

しかし、食卓の下の小犬も子どものパンをいただきます」「確かにティルスの人間は、ガリラヤの人々からパンを奪い虐げています。私もそのティルスの一員です。しかし一方ティルスの中で、私は娘の病気を悪霊によると決めつけられて苦しんでいるのです。あなたの助けを求めて良いのではないですか」。イエスはそこで全面的に彼女の主張を受け入れ、娘を癒されます。

ローカルなガリラヤの視点からみれば、グローバルで豊かなティルスの人間である彼女は、許せない存在でした。しかし、グローバルに発展してきたティルスの中にも、ローカルに苦しんでいる人がいることを見出したイエスは、一面的な見方から解放され、差別の複雑な重層構造に触れ、ローカルな様々な人々がつながる中でこそ、救いのグローバルなあり方が達成されることに気づいていくと思われます。

グローバルになる目的は、そこで弱いローカルな立場におかれた人々がつながる事で強められ、励まされ、癒されることであり、より強いものが、より強いネットワークを基に奪い取る構造を作り上げることではないことを見抜いていくことではないでしょうか。

St. Andrew's  
**OPEN CAMPUS**

あれもこれも  
世界が変わる体験がある。  
も も

6/12(日)・7/10(日)・7/17(日)・8/6(土)・8/20(土)・8/21(日)

事前申込み不要 開催時間 11:00~16:00

往復無料バス

オープンキャンパス当日は  
往復無料バスを運行しています!

泉北高速鉄道「和泉中央駅」、JR阪和線「和泉府中駅」、南海本線「泉大津駅」、南海高野線「金剛駅」、近鉄長野線「富田林駅」、南海本線「和歌山市駅」、JR阪和線「和歌山駅」から運行しています。



世界が変わる体験がある。



桃山学院大学  
St. Andrew's University



最新情報をお届けします!  
LINEの「友達追加」から  
「ID検索」で登録。  
@momoyama\_univ



ツイッターはじめました!  
桃大情報をリアルタイムに発信!  
ぜひフォローしてください!  
@momoyama\_univ



〒594-1198 大阪府和泉市まなび野1-1  
TEL:0725-54-3131(代) URL:<http://www.andrew.ac.jp/>

アンデレクロス No.163 2016 Spring 編集・発行/学長室 企画広報室  
ご意見・ご感想は | [koho09@andrew.ac.jp](mailto:koho09@andrew.ac.jp)